

寄稿

## 全国被害者支援ネットワーク・ 加盟団体に期待すること

東京光が丘ライオンズクラブ 星野 宏一

犯罪被害者支援に携わる皆様、日々のご活躍大変ご苦労様です。

私が、全国被害者支援ネットワークの存在を知ったのは、テレビで全国フォーラムが東京駅にて開催されたニュースを見た時です。それ以前に女子生徒が男子の自宅二階に監禁され殺され、コンクリート詰めで見えられた事件を知り、加害者とその両親に激しい怒りと、女子生徒とご遺族に哀れさを心が痛むほど感じていたので、犯罪被害者支援活動は必要かつ当然の事と思いました。

あれから十数年が過ぎ、犯罪被害者支援基本法が制定され、全国に支援団体が次々と立ち上げられ、被害者週間が実施されるようになり、その進歩は大変著しいと思われまます。だがしかし、被害者の現況は如何なものでしょうか、私には、いまだ、道遠しと感じております。これからは今迄の経験と実績を礎にしてさらに組織を充実させ、加盟団体が隅々までいきわたる支援行動を出来る種々の制度を確立し、広く社会全体に認知されるように努力すべきです。そのためには、ネットワークと加盟団体が何処に何を求めるのか、何をすべきかを定め、一丸となり活動しなければなりません。座して与えられる事を待つ事を止め、自ら積極的に獲得するのです。又、組織は常に新風を入れ、あらゆる考えをまとめていく柔軟なブレインを持ち合わせなければ進歩は期待できません。少し硬直していませんか、失礼ながらそのようにお見受け致します。五百羅漢であれ、情熱と自利利他の気持ちを持って、です。

先全国被害者フォーラムにおいては、秋篠宮両殿下のご来臨を賜ることが出来た事は誠に素晴らしく、皆様の日頃の努力の賜物で

あります。今後も、両殿下のご来臨を切に祈念いたします。と同時にそれに相応しい支援組織を作り上げなければなりません。

本来、専門的な研究及び被害者対応は日本国が果たすべき任務であると思っておりますが、現状は非常に厳しく、将来の願望に等しいと思われまます。今日、色々な事件、事故が多発しております。突然、事件に巻き込まれる事が有るかもしれません。増々、被害者支援は重要かつその役割は大きくなるでしょう。

私は、ライオンズクラブの一メンバーです、日本全国に約十萬五千人のメンバーがそれぞれの奉仕活動を行っております。今は誰もがご存知でしょうが、目の不自由な方の白い杖はアメリカの一メンバーの発案で全世界に広まりました。又、日本の学校給食はメンバーが問題提起し行動した事が、日本政府が制度化する発端になりました。さらに、薬物乱用防止活動を青少年、その父兄を対象に三十年以上にわたり行っていますが、魔の手は様々な方法で忍び寄って来ます。活動をやめたらすぐに薬物被害が蔓延し、醜い社会になってしまうでしょう。

皆様にご進言致します。ライオンズクラブの数の力と組織の力を活用すべきです。

宮沢賢治は「世界全体幸福にならないうちは、個人の幸福はあり得ない」と言っております。日本全体が安心して生活できる社会にしないといけません。近い将来には日本国が再認識し、その予算を組み、保障も拡充されるようになるまで、政府、諸官庁に反復連打の運動を続けていくべきです。

非常に重い荷物を背負う様ですが、携わる関係者に課せられた使命です。

セルを回さないと車は発進しませんし、アクセルを踏まなければ走り続けません。

皆様にご期待すると同時にライオンズクラブにご指導くださるようお願い申し上げます。

最後に皆様のご壮健を祈念し、拙文を終わらせていただきます。ありがとうございます。